

発行 日本共産党南知多支部



連絡先
〒470-3321 南知多町
内海内塩田77-3
(南知多町議会議員)
内田 保
電話 0569-62-1816
携帯 090-2776-7529

内田たもつだより

内田たもつ ホームページ
http://uchida-tamotsu.jimdo.com



日本共産党発行
shin 赤旗
日刊 3497円
日曜版 930円

南知多町にある特攻兵器「回天」と「震洋」の遺跡

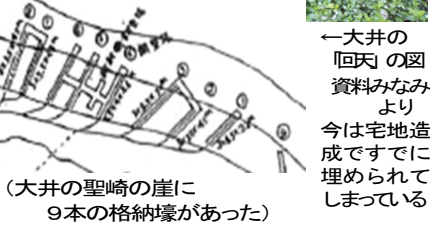
水上・水中特攻兵器の拠点だった南知多町
昭和20年1月1日、「レイテは日米の天王山」と言い続けた小磯首相が年頭辞の放送で「比島全域が天王山」と言い換えた。戦後明らかになった事実をつきあわせていけば、昭和20年始めの戦局は八方塞がり、戦いの打開策は皆無といつてよかつた。それ以降は歴史が示す通りである。

6月議会一般質問より

6月15日、町議会一般質問において内田議員は、戦争体験を風化させず、次世代に平和のバトンを受け渡すために、南知多町にある戦争遺跡・体験証言等の保存・継承を求め、質問しました。
子どもたちに戦争を語り継ぐために、内田議員は半田市が作成した子ども向けのパンフレット「半田にもあつた戦争」を示し、南知多町においても子ども向けのパンフレットの作成を求めました。町からはいくつかの戦争遺跡について、すでに調査しているとの報告があり、資料はパンフレットでなく、データで作成したいとの回答を示しました。
大井と片名の特攻基地について、地域郷土史雑誌「みなみ99号」に掲載された元南知多町の教員で地元歴史研究家の山下泉氏の投稿文「南知多に残る戦争遺跡 大井「回天」基地の行方」から抜粋して紹介します。

悲惨な戦争を二度と繰り返さないためにー 南知多町の戦争遺跡・体験証言を町が責任をもつて保存・継承を

「震洋」は輸送船を
「回天」は戦艦・空母特攻を
水上特攻兵器とは、ベニヤ板製モーターボートに250キロ爆弾をのせた「震洋」であり、水中特攻兵器とは、小型特殊潜航艇と人間魚雷「回天」である。6月12日、海軍司令部は「海軍作戦計画大綱」を発し、水上特攻兵器は輸送船・大型疎船艇を、水中特攻兵器は空母・戦艦・輸送船を第一目標とすることを明確にした。回天・震洋の配備は太平洋側に集中的に約118箇所に配備・計画されていた。



片名の「震洋」跡地は放牧草に覆われ、現在見ることができない
大井の「回天」の図資料のみより今は宅地造成ですでに埋められてしまっている
(大井の聖崎の崖に9本の格納壕があつた)

- ①地形が海岸より300m程の崖であり、地質がけつ岩であるので落盤が少なく、短期間にトンネルをほることができ。
②入り江の北向きが選ばれたのは人家がほとんどないので機密保持に適している。
③入り江の北側には、県道より道が通じている。
④風等の南東の強風と波を防ぐことができる。
⑤背後の丘からは知多湾を一望でき見張りも適している。
⑥入り江の最深部に大井港があり、大量の物資の降揚げが可能。
⑦鉄道終点の河和より比較的距離(約8キロ)約4km北には河和航空隊があり、県道が通じ大量動員と物資供給ができる。
⑧兵を収容し宿舎とする国民学校(大井小)が徒歩15分程度の場所にある。
また、当時の「大井国民学校校長日記」の記述には、9本のトンネル工事には、河和海軍航空隊から多数動員され、当時の警備隊や特攻隊へ「大井国民学校」の校舎借用の記録が残されている。(「みなみ99号」より抜粋 裏面に証言抜粋)

(川柳コーナー)

外交で仲良く分けたハンス島
戦争は往々にして領土の取り合いで始まる。カナダとアメリカが領有権を争っていた北極圏のハンス島を、この14日に半分に分け合うことになった。ウクライナ問題も外交で解決できるはず。

大井の「回天」跡地はすでに埋められてしまっています。戦争体験者がまだ存命のうちに幅広く聞き取り、体験記録を後世に残すとともに、南知多町に残された戦争遺跡の保存は、町が責任をもって行うべきです。データだけでなく半田市のように子どもたちが手にとって見られるパンフレットの作成を切に願っています。

子どもたちに戦争を語り継ぐためのパンフレットの作成を
大正戦争後77年、戦争体験を語る人々は全人口の1割足らずとなってしまう。近い将来、体験を聞いた証言を得たりすることは不可能な時代を迎えます。口伝には心が入り、断片的である場合が多いため、人の思いや時間の経過が事実の姿を変形させてしまうこともあります。そこで、客観的な資料として戦争遺跡や戦争体験の証言の保存継承が行われています。
(半田市で昨年作成された子ども向けパンフレット)